

四次元哲学—BEST 理論

SHO HIROKI

日進コンサルタント（株）

§1 研究背景

これまで、ニュートンの運動の法則等の法則を証明不要の「公理」として、「三平方の定理」といった定理もその真実性だけ確認し、なぜそのような**ならなければいけない**のかは決して究明しようとはしない。また例えば、樹木は思考能力もないのに、なぜ地球のどこからでも斜めではなく垂直に立っているかといった自然現象や、“男と女はなぜ愛し合うのか” “人はなぜ笑ったり、泣いたりするのか” “人間はなぜ時には良い人、時には悪い人になるのか” “世の中はなぜいつも戦争と平和の繰り返しとなるのか” といった社会現象について、人々は当たり前のように思って、その原因を深く追究する必要はないか、またはもともと答えはないだろうと考えているようである。

つまり、人々は自然の様々な現象や事実といった “What” に対して認識しているが、その根本的原因及び理由といった “Why” については、決して理解しているとは限らない。言い換えれば、様々な “知識” として、その “現象” を知っているが、その “原理” としての “本質” は決して分かっているとは言えないのである。

さらに、自然界や人間社会における様々な物事の発生、存続、変化、盛衰、消滅等において、その**共通的・支配的・決定的**要因はあるだろうか。あるとしたら、どこにあるのだろうか。

§2 「BEST 理論」とは

そこで、長年の研究を重ねてきた結果、次のような「BEST 理論」を打ち立てた。つまり、「万事万物には唯一共通の「本質」(E-essence)は「バランス」(B-balance)であり、そのバランスの維持または打破には「システム」(S-system)と「技術」(T-technical, technology)の二つの条件が不可欠である。よってこの世界はこの B・E・S・T の四つの要素からなる**有機結合体**こそ、全ての

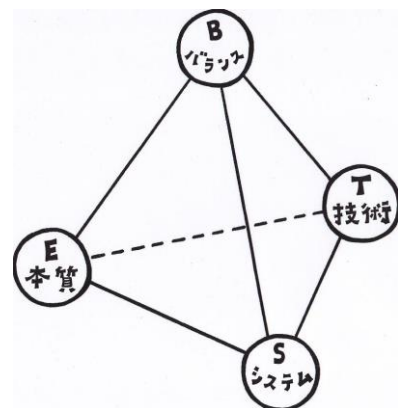


図-1 「BEST 理論」概念図

物事の存在と変化を支配し、あらゆる生物の動機と欲望をコントロールする根源であると結論づけた(図-1 ご参照。この理論を纏めたのは「BEST 理論-幸福の道へ」という拙著で、風詠社 2017 年 4 月発行)。

この理論は人々に「**本質を透視する視力、バランスを量る視線、システムを俯瞰する視野、技術を応用する手段**」を身に付けさせ、問題の分析及び解決における「**深度**」「**尺度**」「**広度**」「**力度**」をそれぞれ保証するものとする。

§3 「BEST 理論」の応用

従って、この理論を応用すれば、様々な自然現象や社会事象に**合理的・科学的**な解釈を与えると共に、これまでの様々な難問難題、例えば、

- 人々は物事の「良悪正誤」に対する**共通**の判断基準はなにか？
- 人間の**本性**、人間関係の**本質**はなにか？
- 愛情感情の**真相**はなにか？
- 人々が愛するのは本当にその「人」なのか？
- 運命や「**因果応報**」は本当に存在するのか？
- 人間は天国にいたら本当に幸せを**感じられる**か？
- どうしたら勉強や仕事、感情、生活等における効率を上げられるか？
- 「**理性的**」と「**感情的**」の理論的解釈はあるか？
- なぜ「格言名言」がお互いに矛盾するのか？
- 社会制度優劣の判断基準はなにか？
- 「**本質**」とはなにか？その**特性**、**求め方**、**判断基準**はなにか？
- 高速道路と一般道路の**本質的**違いはどこなのか？
- コインパーキングと一般駐車場の**根本的**違いはどこなのか？
- 赤の反対語はなにか？
- なぜ作用力と反作用力は等しく**なければならない**のか？等しくなかったら世界はどうなるのか？
- 三角形内角の和はなぜ 180 度で**なければいけない**のか？
- 人文社会科学分野では、本当に統一基準・共通解答は存在しえないか？
- 卵と鶏は**いったいどっちが先**か？
- 「**飛矢不動**」や「**胡蝶の夢**」といった論点の**根本的な論理的間違い**はどこだろうか？
- 永遠と無限はありえるのか？
- 宇宙人は存在するか？
- 宇宙は**何処から生まれ、また何処へ向いている**のか？

等の問題にも、**論理的・ロジック的**な答えを与えることが可能となる。

一例として、例えば人間の本性はいったいなにかについては、これまで主に「性善説」「性悪説」「善悪並存説」「無性説」の四つの「説」があるが、これらに対し、「BEST 理論」を応用すれば、下表のような分析を行うことができる。

歴史上の「人性論」比較分析表

類別	代表人物	問題点		BEST理論の違反
		共通的なもの	個別的なもの	
性善論	孟子 ルソー	① 表象しか見ずに、本質を求めない（無根拠に先ず人間の本性を善悪という表象に決めつけている） ② 善悪の判断基準すら統一されていらないのであれば、そこからの結論もそもそも定まらない ③ その結果：問題の答えとならず、的外れ。	①、事実違反、極端偏狭 ②、普遍性なく、すべての人々の共性でもなければ、一個人の本性すら言い切れない。	本質の「同一性」と「唯一性」
性悪論	荀子 アウグスティヌス ショーペンハウアー			
善悪並存論	世碩 董仲舒 プラトン		①、善悪共にあるのは自己矛盾 ②、答えていないに等しいため、何の役にも立たない。	本質の「唯一性」
無性論	告子 ロック		①、存在すら否定され、ロジック違反 ②、事実違反で、極端偏狭的	システムの「目的性」、「因果性」、「維衡性」、「進取性」

つまり、「善人」と言っても悪いこともするし、「悪人」といっても善いこともする。また、仮に善いことまたは悪いことばかりする人がいるとしても、それはあくまでも**その人に限る**本性で、人間の**普遍的**本性とは言い切れない。さらに、人間の本性を無根拠にまず「善悪」という範疇に**限定**してしまうこと自体は、そもそもその出発点が間違っている（そうするなら、まず「人間の本性は善悪という範疇にある」という命題に対する論理的証明が必要となってくる）。これに「善」か「悪」かに対する世間の**共通認識**及び**統一判断基準**もないというより**致命的な問題**を加え、そこから結論を導いていく自体は、まさに「**未知に基づき、未知を求める**」のようなもので、ますます未知（不正解）となるばかりである。その結果、どの説も**的外れで、偏狭的、非現実的、非普遍的**なものとなってしまう。これらの間違いを犯している根本的原因是、まさに BEST 理論の「**本質論**」「**バランス論**」「**システム論**」を違反しているからである。

では、人間の本性はいったいなにかということ、実はすべて「**我**」のためである。この「我」とは「私の」（Mine）意味に相当するものである。その範囲は他

-2 「我」の幾何学モデル

この「我」の幾何学的モデルから人間の基本的思考メカリズムや動機欲望及び様々な社会現象に合理的・論理的な解釈を与えることができる。また、少しでも世界が平和となり、人類が幸福となるように、人間及び社会関係の基本規範を提唱することができる。

§4 まとめ

厳密に根拠→推理→結論→検証といった手順を踏んでから初めて結論付けを行う。且つ、なるべくこれらをモデル化、数式化、定量化、定量化にしている。また、この理論の唯一の目的は「真実・真相・真理」を求めることにあるため、決して先入観的・主観的思想や主義、イデオロギー的なものに左右されない。さらにこの理論から導き出した様々な観点は 我々すべての人間のすべての生活と密接に関係し、随時随所で直面する様々な人生問題に答えているものでもある。

従って、この理論は四次元哲学、立体哲学、大衆哲学、実用哲学として、世の中で少しでも役立つことを期待しているところである。

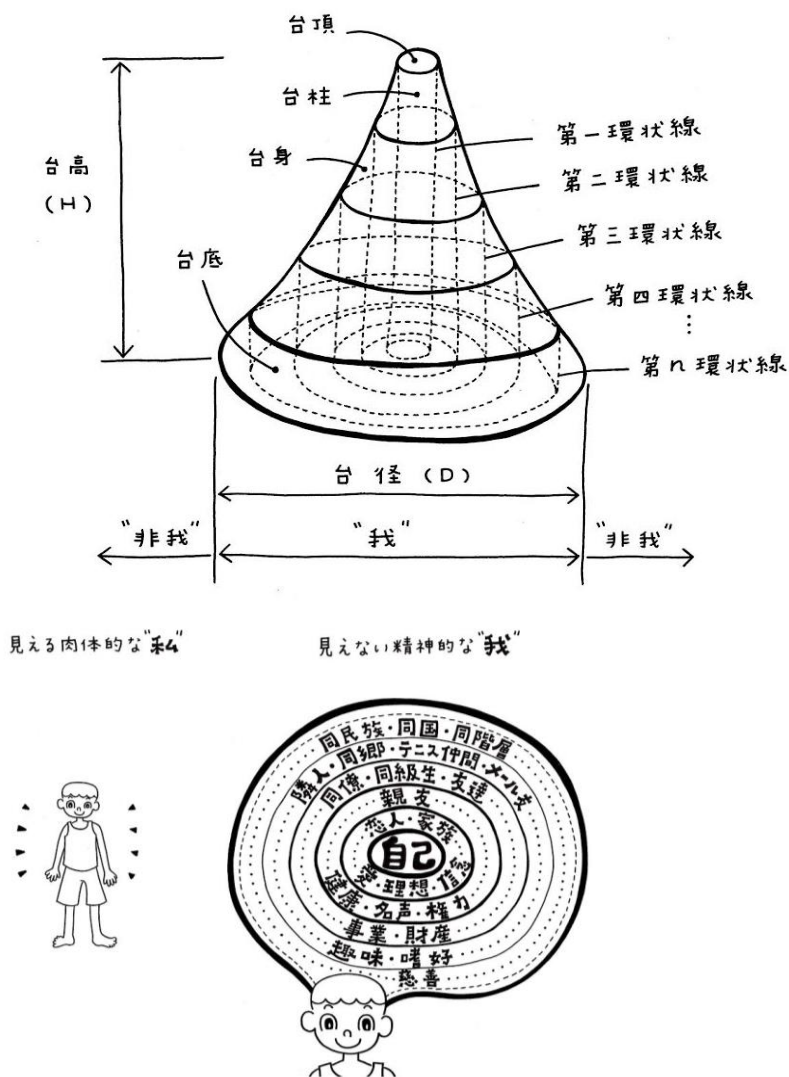


図-2 「我」の幾何学モデル